

Kintetsu

近鉄アート館

不思議ふしぎ…  
フシギの物語



— 予告 —

～奈良・学園前楽しい朗読教室  
第3回発表会～

12月6日(日) 14時～

- 於：ギャラリーGM-1  
(近鉄学園前南口より徒歩5分)
- 演目：小泉八雲「雪おんな」  
宮部みゆき「片葉の芦」  
—お問い合わせは 秋山まで—

■ 朗読 GEN 稽古場案内

場所：ムーブファクトリー  
大阪市北区中崎町  
(JR天満駅より徒歩10分・地下鉄中崎町駅より徒歩3分)  
毎週水曜日 18時半から21時  
見学随時受け付けますが、まずはお問い合わせ  
ください。



■ 朗読教室ご案内

～奈良学園前・楽しい朗読教室～

初心者大歓迎、経験のある方も、また改めて学んでみようと思う方も  
ぜひお気軽にお越しください。

第2、4(火) 10時から/11時半から。無料体験、教室見学あり。

\* どちらもまずはお問い合わせください。

■ お問い合わせは

TEL&FAX/0742-48-8688(秋山)

メール/akikan@m4.kcn.ne.jp

またはホームページ/http://r-gen.jimdo.com

(朗読GENで検索できます)

2015年

10月31日(土) 15:30開演

11月1日(日) 14:00開演

会場/

近鉄アート館

あべのハルカス

近鉄本店ウイング館8階

朗読劇団

朗読 GEN 第13回定期公演

太宰治  
清貧譚  
筒井康隆  
五郎八航空  
舌雀  
切

# ごあいさつ

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。  
今年も、応援して下さる皆様のおかげで定期公演をおこなうことができます。心より感謝申し上げます。

第8回公演の「走れメロス」以来、再び太宰治に取り組み、その多彩な魅力を改めて感じました。しかし、文体のリズムの良さに引きずられると、その言葉の奥に潜むものをとらえ損ねる怖さがあり、朗読する者としても以上に心してかからねばと思いました。彼の小説には、人間の普遍の感情、宿命が描かれてあるからこそ、時代を越え、国を越え、人の心をとらえ、生き続ける文学になるのでしょう。今回の2作品の面白さを、ご覧いただく皆様に少しでも感じていただけるよう精一杯努めます。

「五郎八航空」は再演にあたり、演出の大枠は同じですが、いいむろなおき氏に、マイムを指導して頂き、新しい楽しさを吹き込んでみました。見えないものを見せるという点では朗読と共通点もあるなど、マイムの難しさに「同面喰いながらも一生懸命取り組んできました。」  
どうか今年も最後までお楽しみいただけますように。

演出 秋山 太加

原作/太宰 治

上演台本  
演 出 秋山 太加

## 「舌切雀」

### ■キャスト

お爺さん・・・太田 淑子  
お婆さん・・・田中 章恵  
お鈴雀・・・下村 淑子  
お照雀・メス雀 秋山 太加  
オス雀・・・坂田 昌子  
オス雀・・・森田 圭美

## 「清貧譚」

### ■キャスト

馬山才之助 田中 章恵  
陶本三郎・・・福嶋 左知子  
姉・黄英・・・秋山 太加  
語り・・・太田 淑子  
語り・・・下村 淑子

原作/筒井 康隆

上演台本  
演 出 秋山 太加

## 「五郎八航空」

### ■キャスト

おれ (雑誌記者) 福嶋 左知子  
旗山 (カメラマン) 田中 章恵  
お米・・・秋山 太加  
眼やに・漁夫 太田 淑子  
赤鼻・編集長 下村 淑子  
ガソリンスタンド  
サービスマン 坂田 昌子

## ■スタッフ

音 響……………西角 秀紀  
(榎ムーブファクトリー)  
照 明……………牟田 耕一郎  
(劇団マモコア)  
舞台監督……………佐野 泰宏  
「五郎八航空」 いいむろなおき  
マイム振付け指導  
ヘア・メイク……………五十嵐 公子  
(日本メイクアップアーティスト学院)  
着付け……………奥山 みどり  
衣裳製作……………青柳 秀子  
ヘア・メイク……………井上 三友起  
藤原 美弥  
西口 礼香  
焼野 美帆  
宣伝デザイン……………桂 瑞子  
記 録……………小島 知光  
制 作……………堀川 希 絵  
(Office P.T企画)  
制作協力……………丹原 祐子  
(Office P.T企画)  
音楽選曲……………秋山 太加  
協 力……………田中 仁美  
亀井 恵子  
悠綺 レオ  
田中 博美  
斧 ようこ  
白鳥 司  
安藤 きく  
辻田 有美 (日のみ)  
山田 千佳代 (土のみ)  
稽古場協力 (榎ムーブファクトリー)  
印 刷……………宣 光 社  
企画・製作 朗読劇団・朗読GEN

## ■プロフィール

### 坂田 昌子

おしゃべり集団「チームソラミ」のメンバー。  
インターネットでの朗読作品の発表を中心に、朗読ライブやラジオ出演、ボイスドラマなど、活動の幅を拡大中。  
現在FMたんご「ワンテーマミュージック」(毎週水曜日14時〜)にてナレーションを担当している。

## ■プロフィール

### いいむろ なおき (マイム俳優)

パリ・マルセル・マルソー 国際マイム学院卒業。  
ニデルメイエ国立音楽院コンテンポラリーダンス科最上級クラス首席卒業。  
1998年、フランスから日本に拠点を移し「いいむろなおきマイムカンパニー」の名称で活動を開始。舞台公演、ワークショップや指導、マイム演出、海外フェスティバル参加等、関西を中心に国内外で幅広く活動中。  
2005年(平成17年度)文化庁新進芸術家海外留学制度研修員  
2009年「第3回世界デルフィックゲーム大会」即興マイム部門金メダリスト  
2011年(平成23年度)兵庫県芸術奨励賞受賞

### 今後の公演予定

「死刑執行中脱獄進行中」  
東京：銀河劇場 11/20~29  
大阪：梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ 12/22・23  
他、仙台・広島・札幌・富山  
公演公式web <http://ssds-com>

2012年4月から京都でロングラン公演中!  
ナンバーバルパフォーマンス  
「ギア-GEAR-」  
会場：ギア専用劇場  
ART COMPLEX 1928  
公演公式web  
<http://artcomplex.net/gear/>

### 森田 圭美

関西の学生演劇が、やたら元気だった80年代後半。故郷熊本から進学した京都の大学で、バスケット女子から演劇少女と化す。性別不明or青年役が多いのは、相変わらず!?  
一人娘の大学入学を期に、四半世紀ぶりに舞台復帰。

# 太宰治—人と文学

## —生家は大地主—

太宰治の生家、津島家は津軽屈指の大地主、富豪で、父は貴族院議員、衆議院議員にもなった名士である。明治37年県内多額納税者番付第4位となり、金木の殿様とも言われていた。自宅（現在の斜陽館）は600坪あり高さ4mの赤レンガ塀が巡らされてあった。

太宰の本名は津島修治。六男（11人兄弟の10番目の子供）で母の夕子が病弱であったことからもっぱら叔母や乳母に育てられた。3歳の時、小作人のタケが女中として住み込み5年間子守をつとめた。このタケとの再会が名作「津軽」で感動的に描かれている。

## —津軽に生まれ育って—

津軽は本州の最北端、昔からえぞのくになどと呼ばれ、文化果つる僻地と思われていた。方言も標準語と大きく違っている。女優の渡辺えりは同じ東北の山形出身だが最近の朗読会で、自作の話をまずは山形弁で語り、そのあとで標準語を使い同じ話を語るのを聞いたが、山形弁がほとんど理解できなかった。

小、中時代、標準語で文章を書くことは、外国語で作文するようなものだったと太宰自身が語っている。

飢渴と呼ばれる凶作にしばしば見舞われる雪深い山地であるからこそ忍耐強く、強烈なバイタリティを持つ反骨心のある人間が育つのであろうか。

注1 縄文時代から続く呪術的習俗が残っており、注2 オシラ様 注3 イタコ信仰から民謡、民話、今に至るねぶた絵まで独特の文化がある。それらに加え、長い冬の夜、炬燵で語られる津軽弁の話体が太宰治の文学に大きな影響を与えたといわれている。

## —六男坊の運命—

六男坊とはいえ、30人もの使用人に囲まれ馬車で学校に通う自分を他の人間とは違う選ばれた存在という誇りを持っていた太宰であった。だが、津島家は貧しい農民を搾取し、のしあがったことを聞き、また、浸透してきたデモクラシー、マルクス主義の思想を学びそういう家の生まれであることに後ろめたさや罪悪感を抱くようになる。東大仏文科に進み、多額の仕送りでデカダンスな生活を送りながらも徐々に非法共産党の政治活動にも参加するようになる。当時、日本の家父長制度の中では跡取りの長男だけが重んじられ、六男の太宰はいてもいなくてもよい存在としてまともに扱われず、父母から愛情を受けなかった。そのため下男や召使いたちに親しんで育ち、それがアウトサイダーとしての反逆意識を育み、長兄たちのように取り澄まし、礼儀正しく偽善



的に生きることを拒否することにつながったといえる。しかし、政治活動に入りきることはできず、大地主の息子であることを痛切に自覚して自らを滅ぼすことを望むようになる。昭和5年、21歳の時、高校生の時に知り合った青森の芸妓初代と同棲中に出会ったばかりの別の女性と鎌倉の海で心中を図る。女性は亡くなり、彼は「自殺ほう助罪」に問われたが、長兄の奔走で起訴猶予となる。

その後、送金を停止され、結局共産主義運動と決別する。遺書として書いた「晩年」が注目を浴びるが昭和10年自殺を図り失敗、麻薬

中毒となり、精神病院に入院させられる。この頃初代が他の男と過ちを犯し、絶望した彼は1937年、初代と心中を図るが未遂となる。

自己否定と自己破壊の道をつつ走った太宰の青春期である。

注1 太宰治の故郷の近くには縄文晩期の土器、土偶を産した亀ヶ岡遺跡がある。

注2 オシラ様・東北地方の民間信仰の養蚕の神。男女一対の、桑の木で作った偶像で馬頭のもの、烏帽子を被ったものなどがある。

注3 イタコ・生霊、死霊の意中を述べることを業とする女。

## 『お伽草紙』—表現者に転じて—

### 排除と反抗の前期からの転換

排除と反抗の時代と称した、前期の文学活動は、既成のあらゆる小説形式や方法に反逆したものであった。しかし、井伏鱒二が仲介した、高等女学校で地理と歴史を教える太宰の信奉者、石原美知子との結婚を機に、生き方と同時に作家としての在り方が大きく転換する。自己を否定し、徹底的に破壊しようとする生き方から、社会的に生きる方向へチェンジしたのである。太宰にとっては悲しみを伴う諦めであったといえよう。現世の生き方を認めることは彼にとっては敗北ともいえたが、作家としては充実の中期活動に入ったのである。

### 開花の時代

昭和13年頃から古典、民話、伝承に取材した作品が著しく多くなる。日本や中国の古典、民話などを借りそれを自己の文学に化けさせるという手法が太宰の創作活動の主流となる。彼は自分でストーリーを作るより、既存のストーリーの中で作中人物の心理や情景をさまざまに解釈し、自己を仮託して、空想

をたくましくするのが好きだったという解説もあるが、現実からヒントを得るのではなく古典や民話の読書から刺激を受けて創作へとつなげたといえる。森鷗外、芥川龍之介のような知性的作家の系譜につながる作家だった。この時期、彼は自己の真実を現実ではなく、文学の中に求めたが、そのことが彼の文学的開花をもたらし、次々とすぐれた作品を生む結果となった。奥野健男氏は解説の中で『お伽草紙』を「誰もが知っている民話、伝承をもとに大胆不敵に、自由奔放に自己の空想の翼をひろげ、自己を告白し、現代を諷刺し、人間の性格、宿命のおそろしさを造型した20世紀文学の傑作である」と書いている。

戦争期にあつて、本来の在るべき姿を見失った多くの人々を眼前に見つつ、人間が持つ心のあり様を忘れず、それを文学に表現したまことに稀有な作家といえる。多くの文学者が書く技術を持つがゆえに戦争に加担していった中で太宰は凜乎として、芸術至上主義的な文学者として生きたのである。

# 舌切雀

新潮文庫『お伽草紙』所収

世の中がますます戦争に傾き、言論統制の厳しさが増す中で、彼は自己の内に向かってすさまじい創作への道を突き進んでいく。それは現実逃避ではなく、いかなる時代においても存在する人間の根源的感情というものを見据え、描いたのである。

『お伽草紙』は戦争末期の昭和20年3月連日の空襲のさなかに書き始め、敗戦の直前7月に完成したものである。そして、その年の10月筑摩書房から刊行された。

明日をも知れぬ空襲の中、防空壕で子供に読んできかせる昔話をもとに自己の人生観、芸術観、倫理、理想、実生活の体験も含めて作品を創りあげた。「人間とは」などと考えることも許されない時代に、どうにもならない人間の宿命をユーモラスな語り口で描いた、読むほどに怖ろしい物語だと思ふのだが、果たして見終わったあと皆さんはどんな感想をお持ちになるだろうか。

## あらすじ

若くして挫折したお爺さんは社会の敗残者である。嫉妬深い妻に悩まされ、空想の中で、雀のお照さんに恋をする。さて、雀にまで嫉妬したお婆さんは……

「カチカチ山」  
兎を十六歳の処女に、狸を風采のあがらぬ愚鈍大食の大男に想定した。美少女と醜男の悲劇的宿命の物語。

「浦島さん」  
すべてが無限に許される海底のユートピアを太宰治は深い絶望を持ってみている。  
亀との芸術論には当時の太宰の思想が伺われる。

「瘻取り」  
お爺さんを通して、周囲や家人に理解されない芸術家、利益を求める社会と別次元に住んでいるアウトローの人間の心情を描いている。

『お伽草紙』の他の作品

「お伽草紙」の他の作品



## 太宰治年表

1909(明42)	青森県北津軽郡金木村に生まれる
1920(大9)	綴り方では既成の物語を脚色して独自の物語を作る
1922(大11)	6年間全甲主席で金木第一尋常小学校を卒業
1927(昭2)	官立弘前高校に入学。芥川の自殺に衝撃を受ける
1928(昭3)	同人雑誌「細胞文芸」創刊するも第4号で廃刊
1930(昭5)	東京帝国大学佛文科に入学 5月井伏鱒二に会い、以後生涯の師と仰ぐ
1932(昭7)	左翼運動からの離脱を誓約
1933(昭8)	同人誌に「魚服記」が掲載
1934(昭9)	「猿面冠者」「ロマネスク」
1935(昭10)	パピナル中毒となる 「道化の華」「ダス・ゲマイネ」
1936(昭11)	パピナル中毒により入院「晩年」
1937(昭12)	初代と心中未遂。「20世紀旗手」
1939(昭14)	石原美知子と結婚。「葉桜と魔笛」「富嶽百景」三鷹下連雀に転居
1940(昭15)	「走れメロス」「駆け込み訴え」「女の決闘」「ろまん燈籠」
1941(昭16)	長女園子誕生。太田静子が訪問「新ハムレット」「清貧譚」
1943(昭18)	母夕子の一周忌に妻子と青森へ「右大臣実朝」
1944(昭19)	越野タケに再会。長男正樹誕生「新釈諸国噺」
1945(昭20)	甲府に疎開。全焼で金木へ疎開「お伽草紙」「パンドラの匣」
1946(昭21)	坂口安吾、織田作之助とつき合い始まる。無頼派と称す 初の戯曲「冬の火花」
1947(昭22)	3月次女里子誕生。11月太田治子誕生。「トカトントン」「ヴィヨンの妻」「斜陽」
1948(昭23)	山崎富栄と玉川上水に入水自殺する。「人間失格」「桜桃」「如是我聞」

# 清貧譚

ちくま文庫・文豪怪談傑作選『太宰治集』所収

若き太宰治は芥川龍之介と泉鏡花にとりわけ傾倒していたが、この二人は近代日本の怪談文芸を代表する作家である。そしてそれを戦後に引き継いだのは太宰治と言われている。日本古典文学の伝統を愛し、古今東西の文学についての知識の深さは抜きでいた。

「清貧譚」は昭和16年に発表された。中国清初の有名な怪奇小説集『聊齋志異』の中の1編に触発され、それを日本の江戸時代に移し替え、作者の豊かな空想を展開して創りあげた作品である。

活動中期に職業作家として生きようとした自己の姿勢の弁明一疑いとあきらめがこの短編のモチーフとなっている。作品は評価されるために、また金銭を得るために創られるものなのかという自らへの問いかけかとも思われる。

芸術家も生活者であることは否定されることではないという悲しい肯定が描かれているようでもある。

# 五郎八航空

新潮文庫「傾いた世界」(自選ドタバタ傑作集2) 所収

作者、筒井康隆は作家であると同時に役者でもある。筒井康隆は本来役者であるという人もいる。なにしろ小説を書く前にすでに役者として舞台に立っていたのである。

彼の描く「ドタバタ」と「ホラー」の面白さは一度読んだらやみつきになるかも知れない。ただしかなり好みのわかれるところであるが。災難に見舞われた虚構の人物を距離において他人事として見物するとき、それは笑いつながる。演出、筒井康隆が役者の筒井康隆に紙の上で演じさせた作品を、私たちは演出意図を理解し、役者の仕事をやり遂げることができるだろうか。

## あらすじ

江戸、向島に住む才之助は貧乏ながら菊作りに血道をあげている。偶然、旅の途中で出会った姉弟と、才之助は彼の汚い陋屋で暮らすことにするが……

### ■聊齋志異

中国の怪奇小説集。清の蒲松齡(ほしょうれい)の作。16巻  
怪しい不思議な話、鬼、もののけ、化け物など怪異なるものを扱った短編431編を集めたもの。

### ■太宰治初期の短編「怪談」より

(大正15年(1926)12月)  
(県立青森中学の文学仲間と発行していた同人誌『蟹気楼』に掲載された文章。)

「私は小さい時から怪談が好きであった。色んな人から色んな怪談を聞いた。色んな書籍から色んな怪談を知った。一千の怪談を覚えているといっても過言ではなからう。世に怪談ほど、神秘的なものはあるまい、そして同時にこれ位厳粛なものもないであろう、青い蚊帳の外に灰色の女の幻影が表われた時、ほの暗い行燈の陰にやせこけたアンマが背中を円くしてチョココンと座っていた時、私はそれによって神の存在を知り得た位である。」

## あらすじ

雑誌編集者のおれと、カメラマンの旗山は無人島探訪企画のため、乳島に向かう。

しかし台風のため彼らは帰れなくなってしまった。さて……

### 筒井康隆

1934年、大阪生まれ。同志社大学卒。  
1981年『虚人たち』で泉鏡花文学賞。  
87年『夢の木坂分岐点』で谷崎潤一郎賞。  
89年『ヨッパ谷への降下』で川端康成文学賞。  
92年『朝のガスパール』で日本SF大賞。  
96年12月3年3ヶ月に及んだ断筆を解除。  
2000年『わたしのグランパ』読売文学賞を受賞。